

# 平成23年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」 医療・福祉・健康（スポーツ）分野産学コンソーシアムの進捗状況【報告】

コンソーシアム代表機関  
学校法人滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校

## 1. 事業目的

本事業では、健康サービス分野（スポーツ・フィットネス業界）に従事する専門人材の人的ニーズや能力要件等に関する調査研究を行い、その結果に基づき、専門人材の「職業能力評価基準」（日本版 NVQ）を開発する。更に「職業能力評価基準」を試験的に適用し、その有用性等の検証を行う。その目的は、「スポーツ基本法」の趣旨に則り、健康大国・スポーツ立国の推進に貢献できる中核的専門人材の養成と資質向上を図ることである。

## 2. 事業内容

本事業では、「スポーツ基本法」が示す基本理念や基本的な施策を踏まえ、これからの我が国における健康大国・スポーツ立国の推進に貢献できる質の高い専門人材の養成と資質の向上を図ることを目的として、健康サービス分野（スポーツ・フィットネス業界）の専門人材に関する「職業能力評価基準」を開発する。具体的には「スポーツ基本法」が示す専門人材「スポーツの指導者その他スポーツの推進に寄与する人材」を踏まえ、以下に示す3つの分野の専門人材を対象として、現状調査、人材要件の明確化、能力評価の標準化等に関する検討を行う。

＜検討対象の3つの分野の専門人材＞

- ① 各スポーツ現場で共通的に活躍するスポーツトレーナー
- ② 総合地域スポーツ施設で必要とされる人材
- ③ 障害者スポーツの支援人材

具体的には、次の①から③の取組を行う。

### ① 現状調査の実施

上記の3つの分野の専門人材を対象に、各専門人材の業務や能力、及びそれに関連する業界の実状や動向等に関する調査を実施する。

ここで想定している調査の項目は以下の通りである。

#### ○関連資格

専門人材の業務遂行や能力の評価等に関する資格の内容等に関する調査

#### ○教育訓練・カリキュラム基準等の事例

専門人材を養成する教育機関・訓練施設等における教育訓練の内容やカリキュラム等に関する調査

### ○職業能力評価の事例

他業界・他分野を含む職業能力評価の事例に関する調査(例えば、中央職業能力開発協会「職業能力評価基準」等)

### ○業界における人材ニーズや能力要件

業界が求める専門人材の専門性や能力等に関する調査

医療・介護現場が求める専門性や連携能力等に関する調査

### ○障害者スポーツへの対応

障害者スポーツの実施状況や支援等の現状に関する調査

### ○業界動向

健康サービス分野(スポーツ・フィットネス業界)の動向等に関する調査

## ② 職業能力評価基準の開発

上記①の「現状調査」の結果に基づき、本取組において評価基準策定の対象とする専門人材に関する検討を行い、その結果を踏まえて専門人材に求められる職業能力項目とその評価基準を策定する。

この「職業能力評価基準」では、職業教育段階にある学生の能力も評価の範囲とし、専門人材として活躍する就業以降の能力評価と連続性を持った一体的な枠組みとする。また、この基準を教育活動の評価にも活用する方策についての検討も想定とする。

これにより、学校教育と実務の接続性をより一層高め、専門教育・職業教育の実効性の向上を図る。

## ③ 職業能力評価基準の検証

開発した「職業能力評価基準」を試験的に適用し、その妥当性や有効性の検証を行う。その結果に応じて、「職業能力評価基準」の改善を図る。障害者スポーツ支援人材については、現状調査の結果を踏まえて検討する。

ここで想定している基準検証の観点は以下の通りである。

- ・能力項目の妥当性、有用性
- ・設定レベルの妥当性、有用性
- ・評価基準の妥当性、有用性
- ・評価方法の妥当性、有用性

検証については時間の関係上実施による検証は困難であることから、各方面の関連識者に上記に4項目についてのヒアリング・評価を仰ぎ、今後の検討に活用する。

#### 4. 産学コンソーシアムの構成員・構成機関等

11	日本フィットネス協会	調査担当	東京
12	(株)ルネサンス	基準作成担当	東京

##### (2) 協力者等

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
石井 荘一	健康体づくり事業財団	調査実施協力	東京
池田 千佳子	日本サッカー協会	調査実施協力	東京
齋藤 桂三	日本バレーボール協会	調査実施協力	東京
小岩 孝一	日本卓球協会	調査実施協力	東京
永井 誠	日本フェンシング協会	調査実施協力	東京
大橋 寛太	ヤクルトスワローズ	評価実施協力	東京
後関 慎司	FC東京	評価実施協力	東京
山本 晃永	Y'sアスリートサポートクラブ	基準作成協力	東京
鈴木 岳	R-BODYプロジェクト	基準作成協力	東京

##### (3) 産学コンソーシアムの下部組織（設置は任意）

名称（調査分科会）			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
関口 正雄	東京メディカルスポーツ専門学校 学校長	取り纏め	東京
長原 正雄	大阪社会体育専門学校 学長	実施	大阪
近藤 雅臣	大阪ハイテクノロジー専門学校 学校長	実施	大阪
鶴見 幸子	日本フィットネス協会 理事長	実施	東京
名称（基準作成分科会）			
関口 正雄	東京スポーツ・レクリエーション専門学校	取り纏め	東京
菊 幸一	筑波大学大学院	助言	茨城
塩野 寛	北海道ハイテクノロジー専門学校 学校長	作成	北海道
真崎 裕子	私立専門学校等評価研究機構 事務局長	作成	東京
斎藤 敏一	(株)ルネサンス 代表取締役会長	作成	東京
名称（評価分科会）			
田中 輝男	福岡医健専門学校 学校長	実施	福岡

## 5. 会議(委員会、分科会等)の開催実績と今後の予定(23年度内)

### 第一回実施委員会

日時:12月5日 14:00~16:00

#### 議題

- (1)委員自己紹介
- (2)本事業の概要
- (3)意見交換
- (4)今後の進め方

### 第二回実施委員会

日時:2月3日 13:00~15:00

#### 議題:

- (1)調査研究の中間報告
- (2)意見交換
- (3)今後のスケジュール

### 第三回実施委員会(開催予定)

日時:2月29日(13:30~15:30)

#### 議題

- (1)調査研究の中間報告
- (2)意見交換
- (3)今後のスケジュール

### 第四回実施委員会(開催予定)

日時:3月上旬

## 6. アンケート調査やヒアリング調査について

アンケート、インタビュー実施企業・団体

<プロチーム>

ヤクルトスワローズ

ジャイアンツアカデミー

FC 東京

JEF ユナイテッド

ベガルタ仙台

モンテディオ山形

バルドラル浦安

名古屋オーシャンズ  
BJリーグ その他

<地域型総合スポーツクラブ>

ジュビロ磐田  
アルビレックス新潟  
習志野ベイサイドスポーツクラブ  
調布 SHC 倶楽部  
所沢市西地区総合型地域スポーツクラブ  
コミュニティネット SSC 大泉  
新宿チャレンジスポーツ文化クラブ  
さいたまスポーツクラブ その他

<業界団体>

日本サッカー協会  
日本バレーボール協会  
日本卓球協会  
日本フェンシング協会  
日本陸上競技連盟  
日本車椅子バスケットボール連盟 その他

<関連企業・機関・学校>

フィットネスクラブ各社  
健康体力づくり事業団体  
東京予防医学協会  
当該資格取得支援学校  
各種コーチ／トレーナー養成機関 その他

アンケート開始時期

2011年11月～

対象：雇用者、従業者、利用者

方法：①データによるアンケートの送信→依頼先でのプリント及び回答

②直接インタビュー

現状での回収率は50%程度(回答頂けない場合も想定されます)

現状での雇用や評価についての把握、将来への展望や希望を問う事により、種目等の環境による差異や共通点を探り、統一した基準を設ける足掛かりとする。

## 7. モデル・カリキュラム基準と評価基準について

①スポーツトレーナーについては種目や業界ごとに要件が様々である事を受け、共通の必要十分条件となる項目を抽出。また、複数の資格が混在している現状を受け、各資格との関連性を考え、九通する評価項目を資格と関連づけ、モデル・カリキュラムを評価する仕組みの構築を目指す。一定の項目に関して医療知識、リハビリ、ストレングス等、モジュール化して項目を構成し、資格の取得要件と重複する場合に評価とする相関関係を明確化する。

②総合型地域スポーツクラブ人材については、現状の調査結果から、多くの雇用が発生する見込みが得られていないが、各クラブが抱える問題や課題は抽出されたので、その問題を解決し、課題を達成出来る人材をモデルとしてモデル・カリキュラム基準及び評価基準の考案を目指す。

③障害者スポーツについては、スポーツトレーナー及び総合型地域スポーツクラブ人材に関する調査と同時に障害者を対象にしたトレーナー活動の経験者や障害者団体への施設提供者等に調査を実施、基本的にはスポーツトレーナーと同様の素養等が求められているとの意見として多く集まっているが、引き続き、課題の抽出等を行う予定。

④三つの人材に共通することとして、スポーツトレーナー等が生涯にわたってキャリアパスが描けるよう、必要な知識・技術・技能をレベルごとに体系的にユニット化し、それらの積み上げが評価される「学習ユニット積上げ方式」によるアクセスしやすい学習環境の整備を目指す。

⑤スポーツ産業界とスポーツ関係の学校との連携による中核的専門人材養成を目的とした教育の質の保証・向上の仕組みづくりを目指す。その際、学生が学んだことが修得されているかどうかを図る達成度評価の評価指標等を含めた手法や、学校活動における専門的な評価指標等の開発を目指す。

## 8. 次年度以降の取組方針

次年度以降は、本事業の推進組織「スポーツ専門人材養成コンソーシアム」を基盤として、関連団体・組織や専門学校等の組織化を図り、本事業の成果の発展・充実化と普及促進に努める考えである。新たな展開方策として想定されるのは、「職業能力評価基準」をベースとした「教育訓練ロードマップ」（教育訓練体系）と「教育訓練プログラム(モジュール)」を策定し、社会人等の実践的な職業能力を育成する効果的な学習体系を構築することを目指すことである。体制・組織の整備と学習システムの拡充という二つの側面から活動を継続していく予定である。

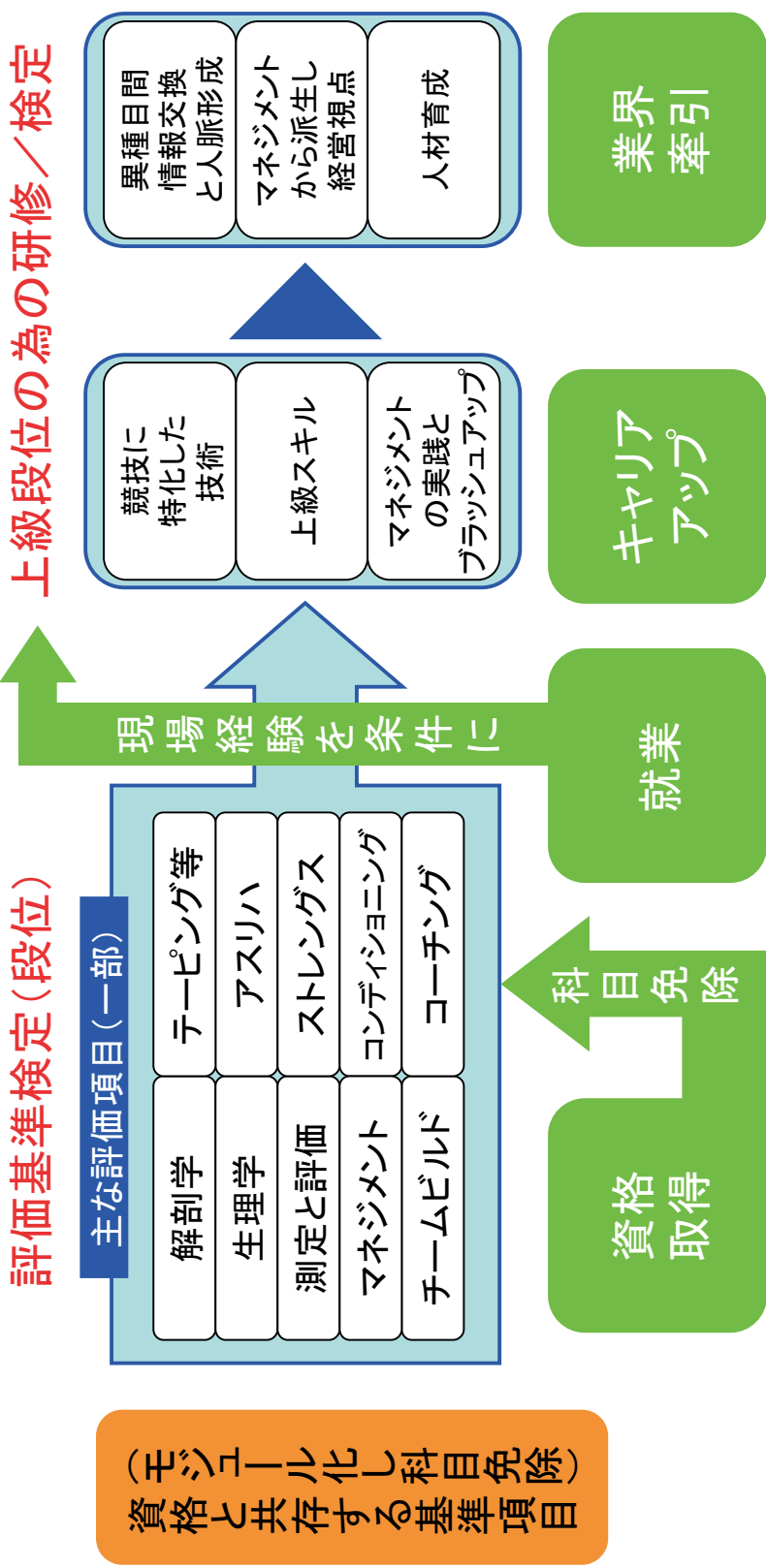
以上

# 「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 評価基準のイメージ（医療・福祉・健康分野／トレーナー）

多くの種目で各々が独自の採用／評価基準を持っている現状を受け、共通するスキル、知識を網羅した基準を目指す  
また、多くの医療系をはじめとする有資格者が参画するこの業界で、資格を含めた総合的評価基準を作成する

<b>医療知識</b>	資格により免除可能な領域 応急処置からリハビリまで	<b>ストレングス&amp; コンディショニング</b>	実技も交えて評価の段階を設定 一部資格により免除可能	<b>ヒューマンスキル</b>	コミュニケーションをはじめ 組織に必要なマネジメント等
-------------	------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	-----------------	--------------------------------

メデイカル／ストレングス、双方の領域での活躍が可能で、組織人としてチームに貢献出来る  
中核的専門人材をベンチマークとした評価基準



# 「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」事業 評価基準のイメージ（医療・福祉・健康分野／総合型地域スポーツクラブ人材）

多様目、多世代、多趣向の会員による地域住民の自主的・主体的な運営をサポートし、会員ニーズに応える魅力を持ち  
かつ財政的にも独立出来るクラブを育成・運営する事が出来る事を目標と設定した評価基準を作成する

スポーツ ビジネス基礎	ヒューマンスキル	スポーツ・コーチング
法務・経理の一般からITや 広報に必要なマーケティング等	コミュニケーションをはじめとする 運営の為のマネジメント能力	指導者達と協力し魅力的な プログラム等を開発する

## 評価基準検定（段位）

### 主な評価項目（一部）

法務	コミュニケーション
会計	マネジメント
簿記	リーダーシップ
IT	チームビルド
マーケティング	コーチング

現場での試行錯誤と  
課題・問題発見

## 上級段位の為の研修／検定

経営視点 管理と運営	上級 専門スキル	マネジメント の実践と ブラッシュアップ
---------------	-------------	----------------------------

情報交換 と人脈形成	地域貢献と 横断的発展	人材育成
---------------	----------------	------

育成機関に於ける  
学習と現場実習

就業

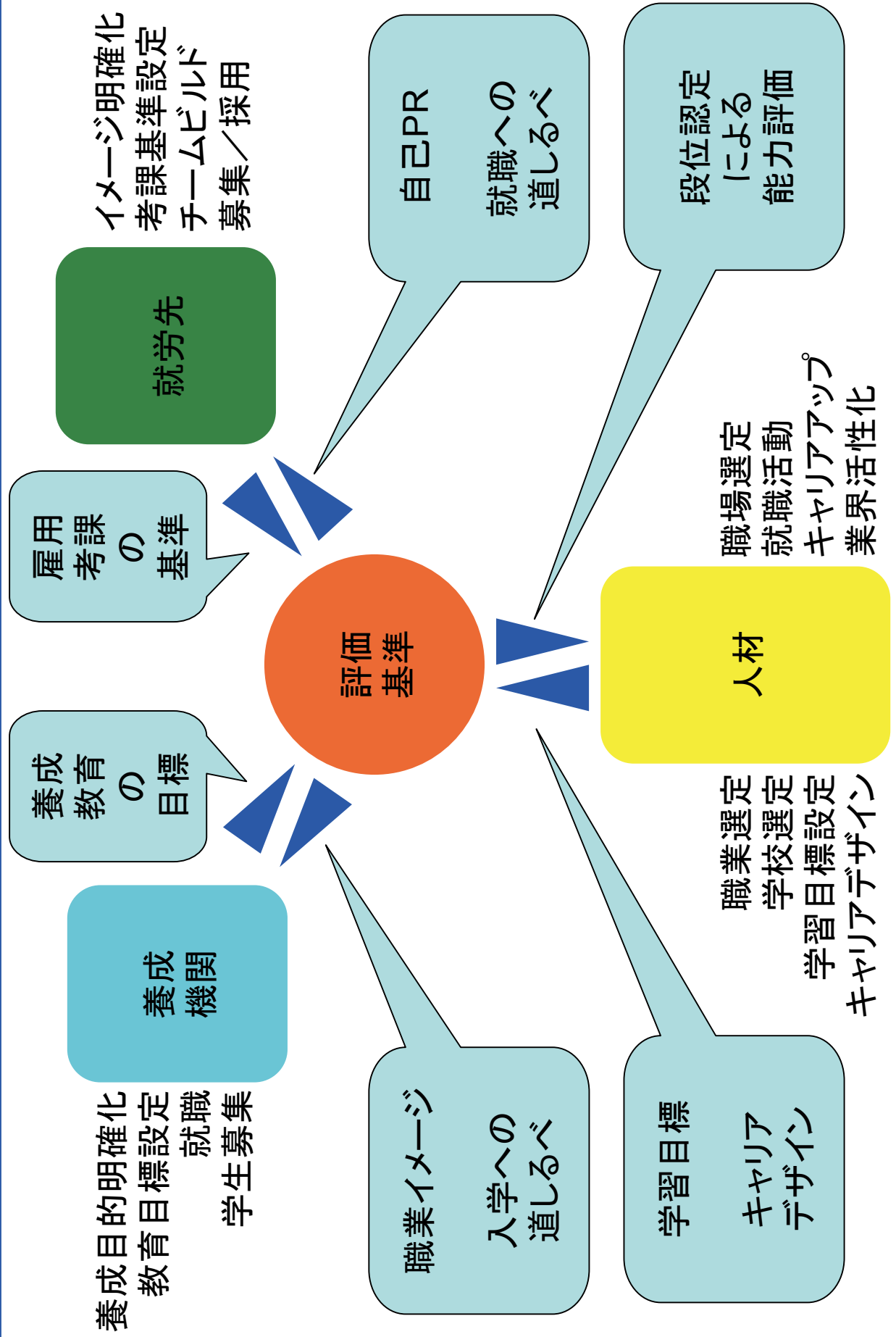
キャリア  
アップ

業界  
牽引

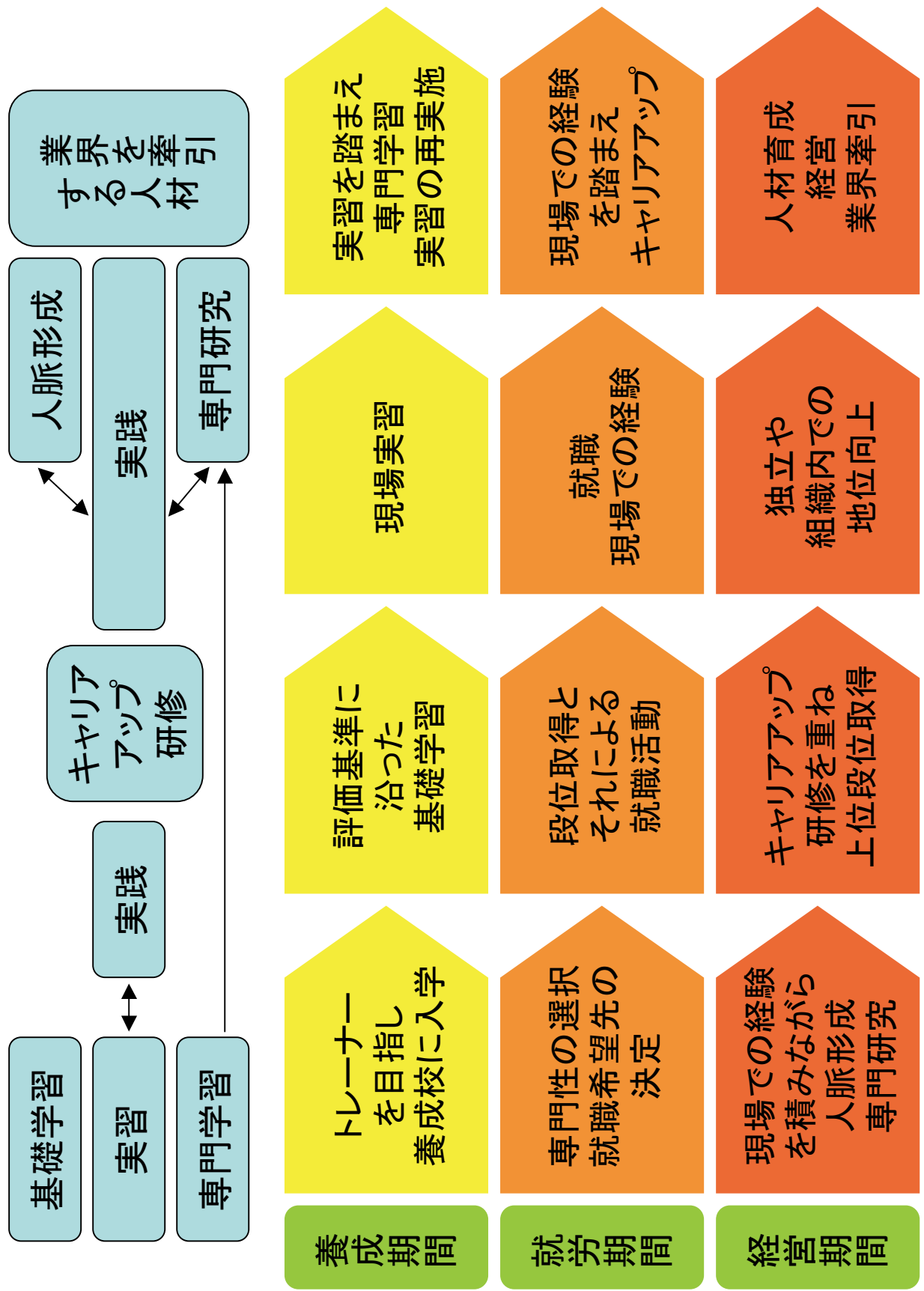
地域に密着したクラブを会員と共に運営が可能で  
地域貢献と独立採算性を両立する事が可能な  
中核的専門人材をベンチマークとした評価基準



評価基準活用イメージ(トリーナー／総合型地域スポーツクラブ人材 共通)



育成イメージ(トレーナー／総合型地域スポーツクラブ人材 共通)



### ストレングス

トレーナーの活動分野／領域の1つ。筋力、パワー、筋持久力のみならずスピード、バランス、コーディネーション等の筋機能が関わるすべての体力要素に不可欠な能力の開発、増強をすること。言葉の定義としては単に力発揮の大きさを表すだけでなく、状況に応じて適切に筋活動をコントロールするための「神経-筋系全体の能力」とされている。

### コンディショニング

トレーナーの活動分野／領域の1つ。スポーツパフォーマンスを最大限に高めるために、筋力やパワーを向上させつつ、柔軟性、全身持久力など競技パフォーマンスに関連するすべての要素をトレーニングし、身体的な準備を整えること。また、一般の人々にとっては、快適な日常生活を送るために、筋力や柔軟性、全身持久力をはじめとする種々の体力要素を総合的に調整すること。

### コーチング

人材開発のための技法の1つ。メンタルコーチングとスキルコーチに分類され、スポーツの分野ではその両方が必要となる。クライアントを目標達成に導く事を指す。現在では交流分析や神経言語プログラミング(NLP)などの手法を取り入れ、スポーツだけではなくビジネスにも用いられている。

### アスリハ

アスレティックリハビリテーションの略称、リハビリテーションの中でも怪我をしてスポーツ復帰をするまでに実施するものを指す。位置づけとしては病院で行う機能回復のリハビリテーション終了後に行われる競技復帰の為のプロセスとなる。

### ヒューマンスキル

コミュニケーション、マネジメント、リーダーシップ、論理的思考、問題発見／解決、プレゼンテーション等、一般的に社会で必要とされるスキルの総称、あくまでスキルであるため技術的であり、人柄等の人格形成は領域に含まれていない。

### 総合型地域スポーツクラブ

身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブ。(1)子どもから高齢者まで(多世代)、(2)様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される。